

中学校第2学年 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

期 日 平成23年9月22日（木）第5校時

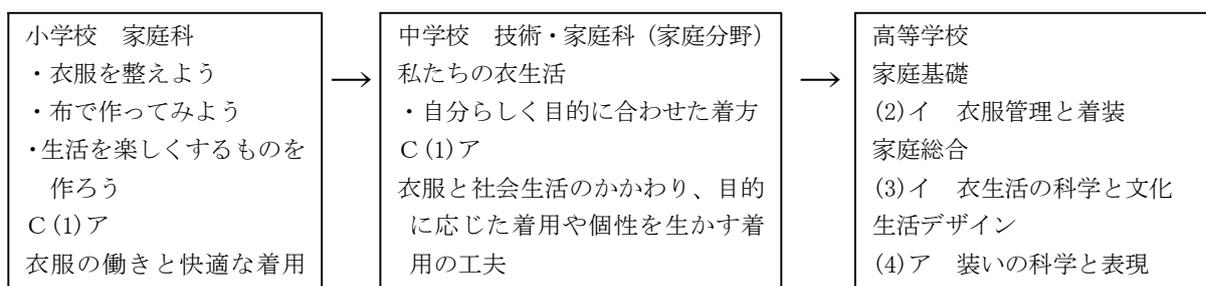
- 1 題材名 「自分らしく目的に合わせた着方」 C衣生活・住生活と自立（1）ア
（東京書籍 新しい技術・家庭科 P88～90）

2 題材について

(1) 題材観

社会や環境の急激な変化は私たちの衣生活にも大きな影響を与えている。多種多様な繊維や織物が開発され大量に生産されるようになり、低価格で入手できるようになった。また、生産の場はコストの低い国外へと移行している。その結果、安価な衣服を次々に購入し、各家庭における衣服の所有数は増えている。こういった現代だからこそ、衣服を適切に管理する能力が消費者として求められている。中学生は他人と自分との違いを意識しながら自分をみつめ成長していく時期であり、自分らしさが最も表現できると思われる衣服に、興味・関心を持っている。色や柄などの調和を考えた、自分らしい着方を工夫し、T.P.Oに応じて着用する生徒を育てたいと考え、本題材を設定した。

(2) 系統観



(3) 生徒観

本学級は男子22人、女子17人、計39人のクラスである。一学期に行ったティッシュカバー製作は積極的に楽しんで活動する姿が見られた。自分が着用する服については、色（80%）、サイズ（72%）デザイン（72%）価格（70%）への関心が高く、原産国（30%）表示（32%）手入れ（25%）への関心は低かった。このことから、生徒たちの興味・関心がおしゃれなどの表面的なことに向いていることがわかる。衣生活に関心を持っている生徒は62%であったが、原料や衣服ができる過程や手入れについての関心は低かった。通信販売で服を購入した経験がある生徒は3人おり、購入してみたいと考えている生徒は、18人であった。衣服の購入についての関心は高い。

(4) 指導観

アンケート結果を見ると、生徒たちは衣服を選ぶ時、色や柄、デザインについては重視していることが分かった。衣服に対しても興味が高いが、T.P.Oに応じた衣服の組み合わせについてはあまり考えていない。パソコンソフトの色彩プランナーを使い衣服の組み合わせをシミュレーションしながら、個性を生かす着用については、着方によって人に与える印象が異なることに気づき、色や形などの調和や自分らしさを考えた着方が工夫できるようにしたい。

Cプロジェクト 情報活用能力の育成の視点から

- 情報活用能力をはぐくむ学習過程では、色や素材、上衣と下衣の選択において、検討し、他の生徒と効果的な意見交換をすることで、見直し再検討し決定するという意思決定の流れを位置付ける。
- 効果的なICTの活用課題として、衣生活における衣服の選択を提示する。個性を表現した着装においてコンピュータのシミュレーションソフトウェアを利用する。目的に応じた情報手段の適切な活用では、カラーコーディネートや上衣と下衣の選択を通して、色や素材、服装の形態が相手にどういった印象を与えるか検討させ、自分の個性をどう表現するか、考えさせる。
- 情報通信機器の利用の方法や端末の操作を指導したことで、目的に応じたソフトウェアの利用やインターネットの利用について、考えることができるようにする。
- 確かな学力の定着と児童生徒によるICT活用の効果の検証では、生徒の学びをすすめる意欲が向上し、本教科におけるねらいが達成できるようにする。

3 題材の目標と評価規準

題材の目標	衣服と社会生活のかかわりを理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用が工夫できるようにする。
生活や技術への 関心・意欲・態度	衣服と社会生活とのかかわりに関心を持ち、時・場所・場合に応じた衣服を着用しようとしている。
生活を工夫し創造 する能力	目的に応じた着用や個性を生かす着用について考え、工夫している。
生活の技能	既製服を選択するための情報を収集・整理することができる。
生活や技術につい ての知識・理解	衣服の社会生活上の機能について理解している。

4 指導・評価の計画（4時間取扱い 本時 3/4）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点	評 価 基 準 (評価基準B) (評価方法)
1	1	衣服のはたらきを考えよう (衣服と社会のかかわり)	・目的に応じて衣服の着方が違う点に着目させ、衣服の社会生活上の働きを考えさせる。	関心・意欲・態度 (ワークシート) 制服、儀式服などの具体例を基に、衣服着用の目的や意味を考えようとする。
2	2・3 (本時)	自分らしく目的に合わせた着方 (カラーコーディネート)	・色や形などの調和や自分らしさを考えた着方を工夫させる。	工夫・創造 (ワークシート) 目的に応じた着方を考え、自分らしい着方を工夫している。
3	1	衣服の選択と活用について	・衣服の入手については、購入するだけでなく、環境に配慮する視点から、譲り受けたり、リフォームしたりする方法にも触れる。	知識・理解 (ワークシート) 衣服の過不足や処分について考え、衣服の計画的な必要性を理解している。

5 本時の学習

- (1) 目標 ・着用する衣服によって、人に与える印象が異なることに気付く。
 ・色や柄などの調和を考えた、自分らしい着方を工夫することが大切であることを知る。

(2) 評価基準 工夫・創造 (ワークシート)

(基準B) 目的に応じた着方を考え、自分らしい着方を工夫している。

(基準A) 目的に応じた着方を考え、色や柄など調和を考え、自分らしい着方を工夫している。

(3) 展開

過程	学習活動【学習形態】	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 ※Cプロジェクトの視点	備考
導入 5分	1 本時の目標を知る。 【一斉】	○インターネットのバーチャルショップをのぞいてみよう。	○シミュレーションにより、購入する方法を確認する。 ※インターネット販売の方法を知る。	電子黒板
展開 40分	自分の個性を生かしたファッションコーディネートしよう			
	2 色彩の基本、配色の基本を確認する。 【一斉】	○色合わせによって、どう感じが変わるか考えてみよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">1 膨張色 収縮色 2 ハーモニーカラー 3 セパレーションカラー 4 アクセントカラー 5 マルチカラー 6 コントラストカラー 7 グラデーションカラー</div>	○パソコンで色や柄を組み合わせて、人にどのような印象を与えるかを考えさせる。	電子黒板 デジタルコンテンツ (色彩プランナー)
	3 デジタルコンテンツを使い、自分らしい衣服の組み合わせを見つける。 【個】	○シミュレーションソフトを使って、個性をいかしたコーディネートをしてみよう。	○イメージが表現できているか、机間指導をしながら確認する。コーディネートの特徴をわかりやすく伝えさせるため、ワークシートに整理させておく。 ※デジタルコンテンツを使って、表現することができる。(必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造)	ワークシート
	4 ペアをつくり、衣服の組み合わせや配色について話合う。 【グループ】	○お互いに、自分らしいコーディネートになっているか、アドバイスしよう。	○アドバイスの内容と、どのように変えたかを伝えさせる。 【評価：工夫】(ワークシート)	電子黒板
	5 話し合ったことを発表する。 【一斉】	○出来上がったコーディネートを発表しよう。		
整理 5分	6 本時の学習を振り返り、まとめる。	○自分らしい衣服の着用についてまとめよう。	○自分らしい衣服の着用には、どのようなことが大切であるかをまとめさせる。	ワークシート

